

2020 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	大谷 浩	職名	教授	学位	EFL修士
----	------	----	----	----	-------

研究分野	研究内容のキーワード
英語教育、第2言語習得	日本の英語教育改革、小中高大連携、英語力評価試験

研究課題
日本の教育システム全体を視野に入れつつ、小規模地方大学が英語教育分野で果たすべき役割を考察し、もって勤務校の発展につながる方策を追究する。具体的には、高校卒業後も英語力向上に意欲を持つ学生に対して、いかにして実際にその力を向上させるかが最大の課題。また、英語を通して視野を広げさせ、自らがどのような社会貢献ができるかを自覚し、それに向け努力する態度を養成するか、などの研究。

担当授業科目
英語学概論Ⅰ、英語学概論Ⅱ、ライティング基礎、パラグラフライティング、人文学入門、初年次セミナー、エッセーライティング (Academic English Writing)、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、卒業研究

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【英語学概論Ⅰ】</p> <p>オンデマンド授業を行った。前日までに授業動画を英語学科のLMSにアップロードし、毎回の授業でリアクションペーパーを提出させ、自らの学習を振り返る時間を取った。よどみない授業進行にするため、例年に増して授業準備が必要であった。技術的な難しさやトラブルもあった。しかし、総じて授業力向上につながった。</p>
<p>授業科目名【英語学概論Ⅱ】</p> <p>後期前半の1ヶ月ほどは対面で行ったが、その後遠隔オンデマンド授業に戻った。工夫した点は英語学概論Ⅰに同じである。</p>
<p>授業科目名【ライティング基礎】</p> <p>遠隔ライブ授業にて、自主作成のe-learningソフトと、教科書による説明を融合したブレンドラーニング方式で行った。</p>
<p>授業科目名【パラグラフライティング】</p> <p>後期最初の1ヶ月は対面で授業を行った。この期間でクラスの雰囲気を知ることができたことが、のちに遠隔ライブ授業に戻った際に、授業運営のやりやすさに繋がった。授業の工夫は、前期のライティング基礎と同じである。</p>

<p>授業科目名【人文学入門の担当者】</p> <p>まず授業の冒頭で、オンラインライブ授業に伴う新入生の不安を緩和するため、オンライン授業についての説明をした。また第1週目の講義担当者として、学問領域における人文学の位置づけを説明し、次週以降に続く各論が、学問領域でどのような位置を占めるのか明確にし、学習効果の効率化を図った。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーI】</p> <p>オンライン授業で必須となる、教員とのメールでのコミュニケーションの取り方をまず指導した。そこでは、ネチケットや、詐欺サイトに騙されないような防衛手段も含めて講義した。続いて、公的な場での文書作成上の注意・指導を行った。</p>
<p>授業科目名【Academic English Writing】</p> <p>オンラインライブ授業にて、教科書にある例題をきっかけに、関連事項を新聞記事から紹介して、その後、各自でリサーチを行わせ、英語でまとめる演習を行った。CreativeWriting までと異なり、引用文献の引用の仕方や、文献一覧の書き方も指導した。また、常に卒業論文の書き方と深く関係することを教示した。対面授業と質的に変わらない授業が提供できた。</p>
<p>授業科目名【専門演習 I】</p> <p>オンラインライブ授業で、新聞記事を中心に、世の中での出来事が英語でどのように報じられているかを学習することに努めた。</p>
<p>授業科目名【専門演習 II】</p> <p>後期最初の1ヶ月ほどは対面授業で行った。自分が興味を持つテーマに絞って資料を集める活動を行わせ、スクラップブックに保存させておくことで、卒業論文の下準備を始めさせた。オンライン授業に戻っても、基本的に同じように授業進行ができた。</p>
<p>授業科目名【卒業研究】</p> <p>1人1人のテーマに応じて、前半は総論的指導、後半は各自にきめ細やかに指導した。必要に応じてフィールド調査にも連れていった。全員の完成原稿をゼミ卒論集としてまとめ、学位授与式で各自に渡した。ほぼ全てオンラインでの指導ではあったが、特段やりづらいことはなく、順調に推移した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
全国英語教育学会 九州英語教育学会	役員 (常任)、幹事 (常任)	1995年 1994年

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
英語学科学科長、第2回全国高校生英語スピーチコンテスト (KANAME 杯) オンライン開催、地域連携室室員、女性活躍WG責任者